

お祭り縦横
Exploration of Matsuri(Japanese Festival)

セクションA
Section A
馬 天駿
Tianjun Ma

82-372 Advanced Japanese II

そろそろ夏になる、様々の所で花火大会や祝賀会などに活動は頻繁的に挙げられている。そのようなことがよく「祭り」を呼べる。日本では毎年の祭りが多し。その時にみんなが一緒に祝賀会の雰囲気にする。全国どこでも祭りを祝う。この論文の以下述べる質問は、こんな大きい活動を挙げるの理由はなんですか？何故頻繁度が高く、人々が全て日取りで家から出て、お祭りに参加するのか？このトピックを選んだ理由は、僕の高校生の時、日本へ初めて行った。色んな祭りを見て。たくさん見たのに、この活動の意義や歴史をよく分からない。だから僕はいつもこのことを探りたい。結論として、祭りの歴史が長くて、日本人の神様に対する態度を代表している。古来の祭りは宗教的な活動だ、時代が変わっている、今の祭りは社交的の意味を含む。最初の祭りは信仰に基づいた。毎年、日本全国で数万の祭りを挙げられる。人々は季節と共に様々なことをする。日本人にとって、祭りの意義が神様に感謝するや豊作祈願や悪霊、疫病退散などを含む。日本人はほとんど神道を信じるので、祭りに参加するのは楽しむ国民的な行事になった。

祭りの歴史

最初のトピックは、「祭りはどうやって生まれたのか」という。最初の祭りは、一つの信仰に基づいた。その時に祭りの名前がまだ決まらなかった。現在の「祭り」のような活動がその時に「祀る」といった。「神話時代」から、人々は現実の祈願を祭祀の形式で祈る。さらに、古来の祭りは神道に関わった。祀られる神様は神道の神様の原初な形態だ。例えば、「天照大御神」は太陽の神様だ（注1）。庶民は光を感謝するために、天照大御神に崇拝する。「恵比寿」は漁業神だ。人々は恵比寿に崇拝する時に豊作へ感謝する。昔、日本は農業社会だ。人々はいい収穫を望む、儀式のような活動をし始めた。日本人ゲスト貴子さんにより、村社会のみんなが集める、その後一緒に儀式をする。古来の祭りとは現在は私たちが認識しているにぎやかな祭りではなく、儀式的な意味合いが強いものでした」（注2）と述べる。今の祭りは、庶民に広まっていった祭りが江戸時代から定着した。祭りはいつも神道に関わる宗教的な活動が、江戸時代から簡略化した後、儀式の意味が古来の祭りより弱くなった。プロジェクトアシスタント三上さんにより、今の祭りは、宗教的な成分あまりない。若者は普段祭りを社交的な活動と思う。とにかく、今も、以前も、祭りはいつも人々を集める。時代が変わる共に、祭りの重点は移し替える。

祭りの現状

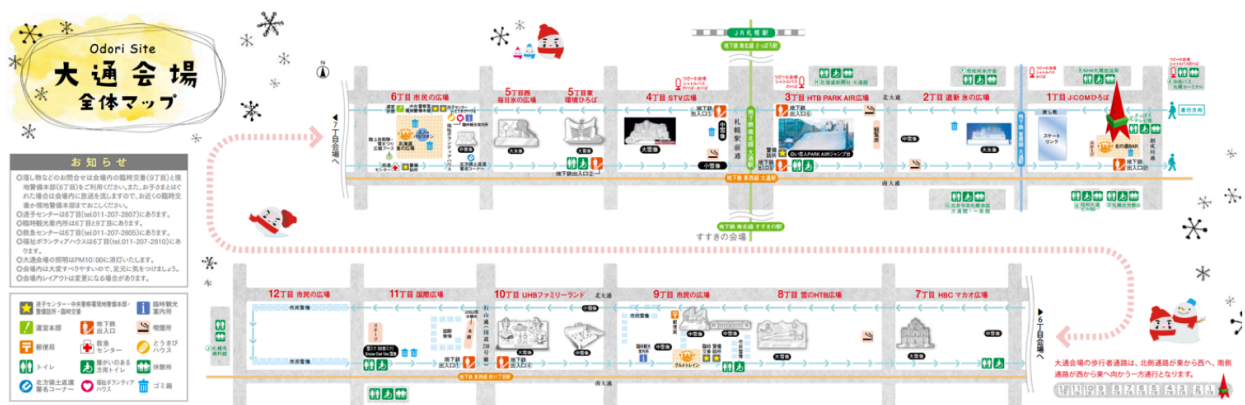
現代の祭りはそれから流行になった。一年間、祭りはたいてい日本のすべての所で挙げられる。これは全部祭りの中の一部の散布だ。これは日本祭りの地図の一つだ。



日本全国お祭りの場所

(<http://www.nippon.com/ja/features/h00010/>)

見易い、日本の村や県や市など、ほとんど祭りを祝う。更に、今年の夏祭りのスケジュールにより、毎日必ずどこかで祭りがある。だから、この活動の頻度は非常に高い。日本人ゲスト真由子さんにより、夏は祭りが一番多い季節だ。毎年の夏で、大都市や県や村など、どんな所でも人々が集めて、一緒に花火を見る、屋台へ行く。のみならず、祭りの規模も大きい。僕は今年の6月北海道にいった時、北海道神宮御祭礼を見た。その時、主要な街がにぎやかになった。札幌の中心地、一番幅広い街大通りは踊っていた人たちでいっぱいになった。同様に、今年の雪祭りは同じく大きかった。これは札幌雪祭りのマップだ。



大通り会場全体マップ

(<http://www.snowfes.com/place/odori/map.html>)

結論として、毎年日本の祭りは全国的な行事だ。たいていすべての所で祭りを挙げて、非常に頻繁だ。その上、普段主要な街で行われるので、祭りの規模も大きいだ。

祭りですること

一年間、日本各地で祭りが多い。人々は祭りで何をするかは一番大切な点だ。そして、日本人が祭りに参加するの理由もやりがいのあるサブトピックだ。季節と共に、人々は様々のことをする。三上さんにより、今の祭りはよく社交的な活動だ。学生たちは一緒に参加する時、伝統的なゲームをして、色んな屋台へ行って、友達と伴わせる。このような集会は若者の大好きな活動だ。祭りは宗教の成分を含むが、人々が宗教的な活動はもう簡略された。本来、人々がすることは色んな社会問題に関わる。お祭り評論家山本哲也により、祭りの種類が多い。種類により、人々は各種のことをする。ひとびとがしたいことは自分と共に「春と秋は豊作祈願と感謝祭、夏は疫病退散、虫送り・台風除け、冬は新春祝い、町おこし」（注3）。そして、神道に関わる、宗教に関わりなく祭りもある。日本の有名な三大祭りは神田祭、天神祭、祇園祭だ。例として、神田祭で、江戸総鎮守神田明神に敬うために、人々は毎年一度の神田祭を行う。その時に太鼓や舞のパフォーマンスや山車行列などの活動がある。伝統的な山車を除く、最近の災害を防止の意味の山車もある。例えば、2009年に、鯰（地震の象徴）と要石（地震封じ）」の作り物が神田祭にあった。



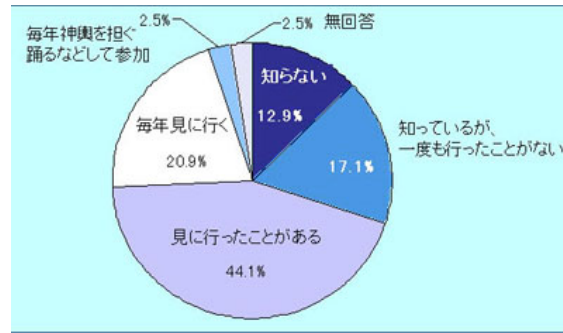
鯰（なまず）と要石（かなめいし）

(https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E7%94%B0%E7%A5%AD#/media/File:Kanda_Matsuri_0716.JPG)

日本人の祭りにとって考え方

日本人にとって、祭りの意義はいろんな目的を含む。ウィキペディアにより、その目的や意義は、豊作の「五穀豊穰」を始め、「大漁追福」、「商売繁盛」、「疫病退散」、「無病息災」、「家内安全」、「安寧長寿」、「夫婦円満」、「子孫繁栄」、「祖先崇拜」、「豊楽万民」、「天下泰平」などだ。鯰と要石と同じ、それ以上はすべ

て日本人の希望だ。日本人は信仰心を持っているので、神様は人々の願いごとを実現する大きい力と思う人は多い。だから、祭で一年の願望を願って、神様を尊敬する。真由子さんにより、祭りの意義は、神様に「ありがとう」を告げる。時が経つにつれて、祭りは日本人にとって神に感謝する行事になる。貴子さんは、「祭りの時どこでもにぎやかになる、活気に満ちる」と言いた。彼女により、人々はいい雰囲気が好き。だから人々は祭りをよく楽しむ。毎年、日本人の多数は祭りへ行く（グラフ1）。



グラフ1

結論として、最初の祭りは神話時代の神様に基づく。日本は最初農業社会だ。色んな祭りの原形は農業のことに関わる。豊作のことを祈る人は、神様の力を信じる。時代が変わる共に、神様と関連する儀式をし始める。現在の祭りは古来の祭りより儀式的意味は弱い、ずっと宗教、特に神道に関わる。祭りの現状は、人気がある行事だ。日本各地で毎年祭りが多くて、規模がいつも大きい。特に夏で、全国必ずどこか祭りが挙げられる、頻度は非常に高い。日本人により、祭りは様々の意義を含む活動だ。幾らかの若者はほとんど「祭りは社交」と思う。更に、複雑な儀式を付く祭りもある。日本人は祭りで友達と一緒に面白ことをして、願望を願って、神様を敬う。大勢の人は祭りに参加する、多数の人はこの活動を楽しむ。でも、こんな流行なイベントの費用はどうか？ 誰が担当しているの？ 祭りのことはどんな費用種類ですか？

参考文献

引用として注

1. 「日本の祭りの歴史と変遷」 http://www.homemate-research-festival.com/useful/12704_tour_007/
2. 「お祭り楽しもう」 <http://www.festival-stalls.com/>
3. 「山本哲也」 <http://www.nippon.com/ja/views/b01201/>

イメージとグラフ：

日本全国お祭りの場所 (<http://www.nippon.com/ja/features/h00010/>)

大通り会場全体マップ (<http://www.snowfes.com/place/odori/map.html>)

鯰 (なまず) と要石 (かなめいし)

(https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E7%94%B0%E7%A5%AD#/media/File:Kanda_Matsuri_0716.JPG)

グラフ 1 (<http://www.gakugei-pub.jp/judi/semina/s0304/mat018.htm>)